

わたしたちの物語

A・Nさん(90才) & 大正大学社会福祉学科 林大貴  
さん

お生まれは栃木県、多分そうだと思いますよ。  
自分で生まれたところがよくわかりませんが(笑)。

アタクシなんかの場合には、戦争があったから疎開だのなんだの、、、  
疎開なんて知らないでしょ？  
ほんとにねえ一箇所じじいとしてゐるなんてなかったのね  
家の中にだつて落ちてゐる時間なんてなかったの。

どんな生活して別に…それほど困るような生活はしてなかった。  
皆さんが思つほじじい生活ではなかった。

なんかほら酷く 集団疎開みたいなのあつたでしょ？  
あの人たちは、ほら食べ物やなんかでもね、  
かなり困つて お寺とかなんかだね

でも私なんかは ほら、縁故疎開つて言つて、親戚に、  
それでもやつぱりね。

同じ年頃の子ゐるじゃないですか親戚に。  
やつぱりねえ 陰でいじめられてる。

なんて言つのかしら

叔父がね。すく私を可愛がつて、  
雨がふつたりなんかすまねいね。

ちよつと遠い田舎だからね 学校が遠いでしょ。



するとね、送ってこってくれたりするのね。

自分の娘よりも私の方を可愛がってたから。

そんな「JJJ」でね、ギョウしゃくしたりしますね。

今考えると、それ当たり前は、

向うについてみれば、親子離れてきているから、可愛想や思っわけ  
叔父についてみればねえ…

でもねえ、それで「よしよし」なんて言っのかしら。

人との付き合い、「距離感」って言うのかな。

ある程度、そういう「アレ」で覚えたのかなって思っ「こと」があります。

それまで親にべったりで、末っ子だったから、

ほんとに母親がいなかったらねえ、何もできなかった、

今まで「こんなこと」なかったんだけどねえ

「こう」いう話をする「よう」になってからね。

「夜ねえ、それ」を「眠り」につく前に

いろいろな「こと」思っ出す「よう」になるんですよね

これだけ「生き」るとね。

いろいろな「こと」思っ出すんですよ(笑)

